

良質な血糖管理、良質な HbA1c とは

ACCORD study では、インスリン強化療法で重症低血糖の発症が有意に多く、DECODE study では、食後高血糖が大血管障害の独立した危険因子であることが明らかです。

一日血糖を平坦化し、質の良い HbA1c を実現することが、合併症予防に繋がります。HbA1c の値に問題がなくても、平坦化された血糖が示す結果でなければ、合併症リスクが高くなります。

これらを判断した上で、治療を進めていくことが重要です。

しかし、随時血糖や HbA1c の値で、血糖コントロールの「質の良否」が判断できない場合があるため、一日の血糖の変動を知ることが、判断の手段になります。一般的な方法として①入院して 1 日血糖をする ②SMBG により 1 日複数回測定する がありますが、①②とも生活制限や針刺しの苦痛が生じ、測定回数も限られてしまいます。

これらに比べ、CGM iPro2 は制限や苦痛が僅かで、仕事など普段通りの生活をした状態で、1 日約 300 回の血糖測定が可能な検査です。杉山内科クリニックでは山形県内先駆けて導入し、患者様方の良質な血糖コントロールのために活用しています。優れた検査であるにもかかわらず CGM iPro2 が普及浸透しないのは、医療機関にかかる負担が大きいことが一因となっています。

合併症の予防を見据えた、血糖コントロールの質を考えた診療が可能な医療機関は、限られているのかもしれませんが。質を意識した治療を推進し、山形の糖尿病治療のレベルアップをはかることが、糖尿病専門医として私の今の目標です。

現在の治療や血糖コントロールについて不安や疑問のある方は、ご相談ください。